
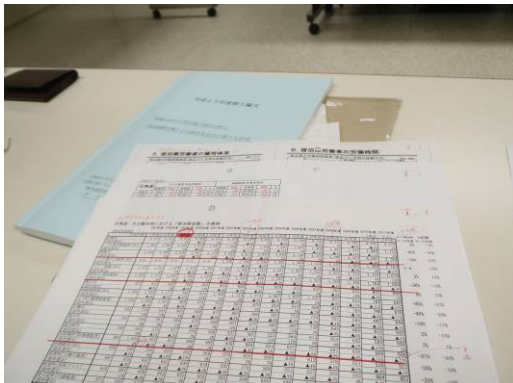


<p><b>[タイトル]</b> 第 14 回きたかんスコラ</p>	
<p><b>[日時]</b> 平成 25 年 3 月 13 日 (水) 18:30~21:00</p>	<p><b>[場所]</b> かでの 2・7 750 会議室</p>
<p><b>[参加人数]</b> 12 名</p>	<p><b>[その他]</b></p>
<p><b>[プログラム]</b> 「数字でみる北海道の宿泊産業～働く場の旅館・ひと」 話題提供：日本政策投資銀行 吉川福利氏 木野聡子 (1-2 期地元学 副講師、博物館展示プランナー)</p>	
<p><b>[概要 (100 字程度)]</b> 今回のテーマは、「数字でみる北海道の宿泊産業」。北海道の観光にとっては切り離せない宿泊産業について、業界動向や労働環境、今後宿泊産業が目指すべき方向について学び、意見交換を行いました。</p>	
<p><b>[内容]</b> <u>I. 北海道における観光客の推移</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 11 年度をピーク (3,670 万人) に、北海道の主な観光地における「宿泊客延数」は減少している (平成 23 年度 2,887 万人)</li> <li>・平均して落ち込んでいるのではなく、大幅に落ち込む地域と維持している地域の二極化傾向にある。</li> </ul> <p><u>II. 宿泊産業の現状 (客室数の推移)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全道の合計客室数はほぼ横ばい。</li> <li>・旅館の客室数が減少し、ホテルの客室数が増加 (ビジネスホテルチェーンの増加)。</li> <li>・本州と比較し、大型旅館 (客室数 50 以上) が多い。</li> </ul>	<p><u>III. 宿泊業における労働状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10~20 代、60 代以上が他業界に比べ多い反面 30~50 代のマネジメント層が薄い。</li> <li>・労働時間の偏り (10 時~14 時代の中抜け)</li> <li>・全産業における宿泊業の割合 (北海道 4.3%) が全国平均より高い (全国平均 2.3%) ※地域によってバラつきあり</li> </ul> <p><u>IV. 宿泊産業の目指すべき方向性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・供給過剰の是正 (施設/客室数)</li> <li>・季節繁閑を少なくする取組 (高付加価値化)</li> <li>・危機感が薄く、宿泊業/観光業が地域で必要とする盛り上げりに欠ける。 ☞ 「きたかん.net」が果たす役割</li> </ul>
<p><b>[写真]</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	